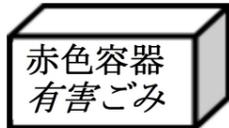
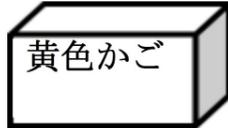


ごみの出し方

※必ず決められた集積所に、朝8時30分までに出しましょう!

資源
週1回収集

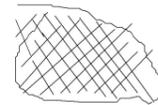


ビン類、スプレー缶、電球類、化粧品のビンOK!
・割れたものは破片が散らからないように透明な袋に入れる。
・スプレー缶、ガスボンベは使い切って穴をあけて出す。
・電球、蛍光灯は購入時の紙などに入れて、ビンのかごの脇へ置く。割れてケースのないものは透明な袋に入れる。

ライター、温度計、乾電池、体温計(透明な袋に入れる)

新聞、チラシ、ダンボール、紙パック、雑紙、布類、雑誌、本類
↓
各々ひもでしばる。

資源プラスチック
週1回収集

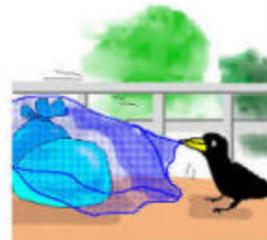


緑のネット

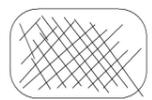
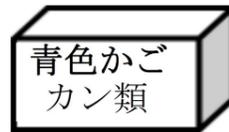
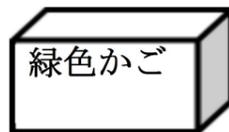
レジ袋などに入っている場合は出してからあみ袋に入れましょう。
・中身の入っているものは絶対にださない。
・汚れているものは可燃ごみへ。
・緩衝剤、梱包用発泡スチロールは可燃ごみへ。
・濡れていても洗ってあれば大丈夫。

可燃ごみ
週2回収集

乳白色の半透明袋
無色の透明袋
レジ袋(極力ひかえる)
※ビニール袋が混入していると二酸化炭素が多く排出されてしまい、環境に悪影響なので、ひかえましょう。



不燃ごみ
週1回収集



ペットボトル用のネット



ペットボトルマークが表示されているもの

キャップは資源プラスチックへ
・中を洗って足で踏みつぶす。
・ラベルをはがす
↓
ラベルは資源プラスチックへ。



180缶(1斗缶)より小さいもの。これ以上のは粗大ごみ。割れたコップ等は破片が散らからないよう透明な袋に入れる。
↓
各々ひもでしばる。

缶詰用カン、一斗缶、飲料用カン、オイル缶、食品用缶
↓
中を洗って出す。

1斗缶のサイズ
(24cm×24cm×35cm)



地球にやさしい 資源循環型社会

を目指して

分かっていよう、意外とあやふやなのが、ごみの分別。私たちがしっかりと分別することで、ごみを減らし、限りある資源を循環させることができます。改めて、日頃のごみの出し方について、見直してみたいかがでしょうか?

(担当/野本巳智子、大澤敦子、表紀子、松下佳子、市川永樹)

一日で38トン进行处理

先日、私たちは昨年12月、志木地区衛生組合富士見環境センター内に完成した「粗大ごみ・ビン処理施設」を訪ね、担当の方から説明をお聞きするとともに、施設の見学をさせて頂きました。

この施設は地球環境にやさしい循環型社会を形成するために、これまでの粗大・不燃ごみ処理施設とビン選別施設を統合し新しくしたものです。ここでは粗大ごみ・不燃ごみの中から鉄とアルミを自動選別して回収し、再資源化工場へ搬出しています。また、ビン類を色別に選別し、再資源化工場へ送ります。ベッドやソファなどの大型の家具などを破砕することができ、機械などを備えており、日に不燃・粗大ごみ25トンを処理しています。

県外で最終処分も

富士見環境センターに運び込まれるごみは年間8万5千トン。そのうち85%にあたる7万2千トンが可燃ごみ、粗大ごみは4千9百トンです。志木市、新座市、富士見市の住民約34万人(1日1人当たり680g)のごみを処理しています。1年間にかかる費用は3市

私たちにできる地球温暖化対策

地球温暖化を遅らせるためには大気中の二酸化炭素の量を減らすことが急務です。これまで二酸化炭素の量を6%減らすことが各事業所に求められていましたが、今年4月からは13%減らすことが目標になります。この

で約24億円、1人当たり年間6千円に相当します。また、焼却灰等の最終処分(埋め立て)は県内だけでなく、群馬県、秋田県、山形県などにもお願いしているという話。中には大変驚きました。その際、焼却灰の中に金物が入っていると、処分場へ受け入れてもらえなくなる場合もあるそうです。分別をしつかり行ってほしいというのはセンターの方からの要望でした。

れには可燃ごみの中のビン・プラスチックの割合を減らすことが不可欠です。最新のデータでは、可燃物中のビニールの割合が、平成23年度は27・25%、24年度27・15%、25年度17・93%と分別が進んでいます。分別が協力が必須です。家庭ごみの総量は横ばいであるものの、平成26年度は可燃ごみが減って、資源プラスチックが増えています。

皆さんは小さなお菓子の袋をどう処理していますか。これも資源プラスチックです。少し汚れたビン・プラスチックも洗ってきれいにしたら資源プラスチックにと心がけていけば、まだまだ可燃ごみの量を減らし、資源を増やしていけます。そうして自然と資源を守る社会を育てていきたいものです。

取材を終えて

今回、ごみ出しのルールについて、詳しくお話を聞くことができました。普段ずっと疑問に思っていたこと、また自分が正しいと思っていた出し方が間違っていたことなど。ごみの分別について考えさせられました。そして、私たち一人ひとりがルールをきちんと守ることで二酸化炭素を減らし、地球環境を良くすることができるのだと改めて思いました。

最新の平成25年度の資料によると、富士見市は県内で一日一人当たりのごみの排出量が最も少ない市だそうです。「ごみを出す前にもう一度分別ルールを確認する」今日から皆で実行してみましよう。

取材協力

志木地区衛生組合

